

「フラテ」原稿

2010年

この一年は当分野にとって大きな節目の年となりました。平成8年から教室を主宰されてこられた福島教授が今年で定年退職されました。これまで大変お世話になり、この場を借りて御礼申し上げます。お疲れ様でした。また今春には、赤尾研究員が旭川医大の助教に採用され、耳鼻科の藤原大学院生、眼科の七戸大学院生が博士課程を、金島大学院生と田代大学院生が修士課程を無事に修了され、研究補助員の一瀬さんが3月で満期退職されました。さらに、10月には約4年間、研究補助員を務めてくれた白石さんが次の目標のために退職されました。

一方、新メンバーとしては、学部生時代から当研究室に出入りしている吉田さんが帯広での初期臨床研修を終えて博士課程に進学し、同じく学部生時代から研究に携わっているMD/PhDコースの松嶋さんが博士課程1年目となりました。また、技術補助員として新たに堀元さんが加わっています。さらに年末からは縁合ってアフリカ・エリトリアからの国費留学生を2年半の予定で迎え入れる予定です。11月からは田中准教授が教授に昇任することになり、これまでの「2生理」の伝統を引き継ぎながらシステム神経科学の研究室としてさらなる発展を目指すことになりました。

では、例年どおり、皆さんからのコメントを順にご紹介します。

田中真樹 教授

学部生時代からお世話になってきた福島先生が退職され、私が後を継いで当分野を担当することになりました。教室OBの加藤先生、丹治先生、福島先生、蔵田先生をはじめ、いつもお世話になっている周囲の皆様に祝福していただき、とても光栄に感じています。張り切ってやっていきたいと思います。まずはとりあえず、今後を健康で乗り切るために人間ドックに行っておこうと考えています。

今年はとにかく忙しい一年でした。福島先生の退職イベントに引き続き、平成22年度から医学部3年生のカリキュラムが大幅に変わったこともあり、前期は講義の準備に追われました。さらにはこれまでいただいていた大型研究費がついに終わりを迎え、研究費申請に時間をとられてほとんど研究どころではない状態でした。幸い、研究室の若手ががんばってくれており、4月には論文のプレスリリースなども経験することができました。今は一刻も早く教室員を待たせてしまっている論文作成に取りかかりたいところです。他に最近変わったことといえば、この夏に米国から来られた老教授夫妻をお連れして、教室員多数と共に万全の体制で旭岳に登りました。私にとって北海道での初めての本格的な登山で、飲みに行くばかりでなく、たまには太陽の下で皆で汗を流すのも楽しいものだと知るよい機会になりましたが、次が続かないとまたすぐ忘れてしまいそうです。

山野辺貴信 助教

今年の夏は猛暑だったのですが、あっという間に終わってしまったという感じだけが残るぐらい忙しい日々を送っています。今年度からは実験関連の仕事を技術職員の堀元ゆりかさん、コンピュータの管理などの仕事を医学部4年生の佐藤洋祐さんと工学部2年生の築田聡史さんに助けてもらい研究を進めています。実験動物のイカが捕れない、イカが体調不良?になったなどトラブルがおきることもありますが、何とかこの体制で乗り切っているところです。

Sergey Kurkin 助教

Originally I am from Rostov-on-Don, Russia. I got my PhD in biophysics in 1983. Since 1995 I joined the Laboratory of Sensorimotor and Cognitive Research at Hokkaido University Medical School. I am working on development of computer-based system to study the neural mechanisms controlling eye movements. This system comprises 3D virtual targets presentation, data acquisition, data analysis and computer modeling.

大前彰吾 博士研究員 (学振)

初めて迎えた北海道の冬は想像以上に厳しく、出歩くのがとても大変でした。3月一杯で福島前教授が退官され、人が減って教室が寂しくなっていました。そんな中で、空いたスペースに新しい機器をセッティングしたり、実験したりと忙しい日々が続いています。これから一年の目標は、これまでの成果を論文にまとめ、新しい研究課題を開始することです。張り切って頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

國松淳 大学院生（博士3年）

博士3年の國松です。札幌にきてはや4年半、雪に囲まれる冬にも慣れてきました。インドアな私ですが、強制的に参加した旭岳登山から北海道の自然のすばらしさを学び、アウトドアに開眼したような気がします。住んでいる土地によって生活スタイルを変えるのも大事なかもしれません。ともあれ、あいつらが待っている所以今日も実験してきます。

松嶋藻乃 大学院生（博士1年）

今年から、博士課程に入学しました。研究どっぷりの生活を、それなりに楽しんでやっています。やっと学部生のときからしてきた研究を形にする段階まで来ましたが、今から更なる壁があるのかどうか、神のみぞ知る、です。壁があるとしても、ひとつひとつ、よじ上るか、壊すかして、超えていきたいものです。別れの多い年でしたが、これから、新しい多くの出会いがあればいいなあ、と思います。

吉田篤司 大学院生（博士1年）

2年間の初期臨床研修終了後、大学院生として帰室しました。今年度は放射線科の後期研修を優先したため実験は行ないませんでした。AD/HD や自閉症といった児童精神の病態解明、診断、治療をテーマとして研究を進めていこうと構想を練っています。

植松明子（医学部4年）

研究室では、色々なことを学ばせて頂いています。興味を惹かれることがたくさんあって、楽しくなります。もっとできることを増やして、おもしろいことを見つけていきたいです。

佐藤洋祐（医学部4年）

昨年度末から短期支援員として硬軟混じりの課題に取り組みつつ、勉強させていただいています。活動のフィールドが情報系にも広がってきており、うわ言の様に言っていた「マッドサイエンティストになりたい」が一步実現に近づいています。実は今号のフラテの編集長。Linux & LabVIEW 使い。

築田聡史（工学部情報エレクトロニクス系2年生）

工学部の学生ですが、医学部にて実験用プログラムなどを書いています、築田です。プログラム等はそれなりに得意で、特に関数型言語に非常に興味があり、最近では Haskell を書いています。なぜ、C++ などではなく Haskell かというと、C++ は書ける人が既に多くいるという事と、関数型言語ではマルチスレッド化がしやすいからです。後は Linux、LabVIEW 使いです。

金島基行 技術補助員

3月に長い長い学生生活をようやく修了することができました。4月からも教室員の皆様のご厚意によって技術補助員として所属させていただいています。おかげさまで念願であった就職内定もいただくことができ、現在は自分にとって今だからこそできることをしているつもりです。やらなければならないことはたくさんありますが、自分を律しながら、今年で最後になる北大生活を悔いのないように満喫していきたいと思っています。相変わらず、黄色いサンダルが目印ですので、宜しくお願い致します。

堀元ゆりか 実験補助員

5月より、こちらに勤務しております。

イカと金魚の世話に、阿鼻叫喚、切磋琢磨、七転八倒、・・・の毎日です。大変なことも多々ありますが、イカの美しさと金魚の節操のなさに癒されています。イカとお友達になれた頃に実験に使うので、それだけが少し残念です。

鈴木真理 事務補助員

事務を担当している鈴木です。教室の和気あいあいとした雰囲気癒されながら、楽しくお仕事をさせていただいています。先生方の情熱と学生さんたちのフレッシュな空気をたっぷり吸いこんでいるおかげで、いつもピチピチ(?)です。

他にも医学研究実習の学生が教室伝統の水曜抄読会に参加していますし、金曜の自主ゼミには学部生や他分野の教員が参加してくれています。また、この一年間の遠方からのお客様としては、ソーク研究所のKrauzlis先生、ウエスタン・オンタリオ大のEverling先生、デューク大のSommer先生、スタンフォード大の加藤先生、コロンビア大のGoldberg先生などが当教室を訪問され、現在と今後の研究について情報交換をしました。これからも世界の動向を意識しつつ、北大オリジナルの仕事をどんどん発信していきたいものです。

(文責：田中)